

助産師活動に関する実態調査

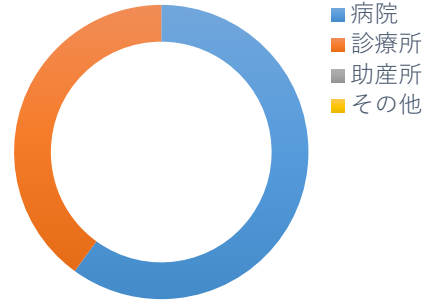
n=15

問1. 貴施設の状況についてお尋ねします。

1. 貴施設の施設類型について、あてはまる項目を選択してください。

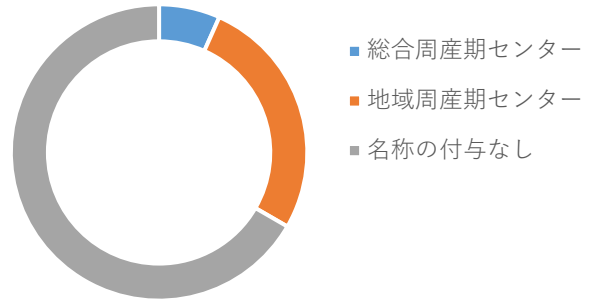
「その他」の場合は、内容を記入してください。

病院	9	施設
診療所	6	施設
助産所	0	施設
その他	0	施設



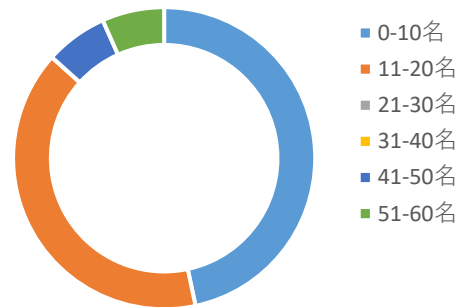
2. 周産期センターの併設について、あてはまる項目を選択してください。

総合周産期センター	1	施設
地域周産期センター	4	施設
名称の付与なし	10	施設



3. 貴施設における助産師の総数について、数字を記入してください。

0-10名	7	施設
11-20名	6	施設
21-30名	0	施設
31-40名	0	施設
41-50名	1	施設
51-60名	1	施設



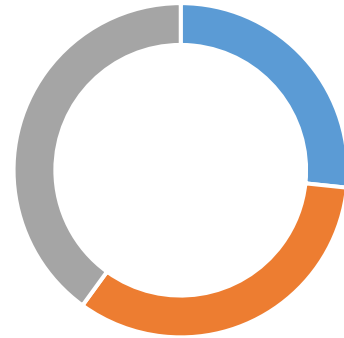
4. 貴施設における助産師が有する資格名称および人数について、あてはまる項目すべて選択し、人数を記入してください。

アドバンス助産師	15	施設	64	名
そのうち2020年度の更新予定者	-		15	名
新規申請者	-		2	名
母性看護専門看護師	5	施設	0	名
不妊症看護認定看護師	6	施設	1	名
新生児集中ケア認定看護師	5	施設	0	名
その他	4	施設	0	名

5. 産科が属する病棟の名称について、あてはまる項目を選択してください。

「産婦人科以外を含んだ混合病棟」は診療科名を記入してください。

産科病棟	4	施設
産婦人科病棟	5	施設
産婦人科以外を含んだ混合病棟	6	施設



- 産科病棟
- 産婦人科病棟
- 産婦人科以外を含んだ混合病棟

産婦人科以外を含んだ混合病棟／記述内容

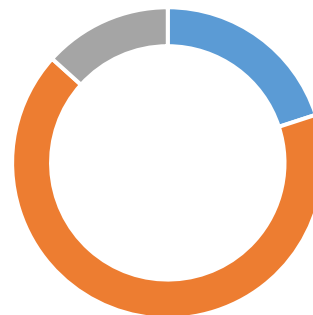
整形外科・内科・外科 内科 耳鼻咽喉科 内科・外科・放科・整形外科・脳外科 小児科、整形外科 外科・整形外科 他 産婦人科・乳腺外科

6. 上記5. の病床数と看護師および助産師数、年間分娩件数について、数字を記入してください。

病床数	合計	415 名	平均	27.67 名
看護師	合計	183 名	平均	12.2 名
助産師	合計	188 名	平均	12.53 名
年間分娩件数	合計	4,781 名	平均	318.7 名

7. 上記5. で「産婦人科病棟」ないし「産婦人科以外を含んだ混合病棟」を選択した方にお尋ねします。ユニットマネジメントを導入していますか。

はい	3	施設
いいえ	10	施設
回答なし	2	施設



- はい
- いいえ
- 回答なし

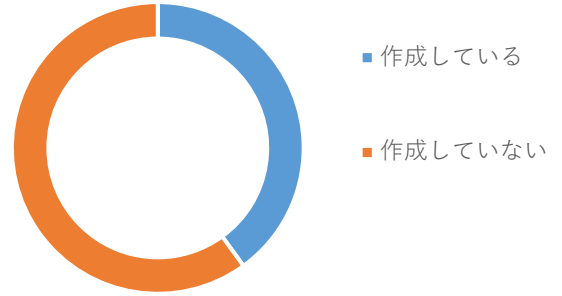
「はい」の場合は、課題を記入してください。

面会：小学生までと面会制限しているが、面会希望が多い 病床：18床あり、空室が多くなる。空いていれば婦人科は入院している。 産科ユニットの稼働率が低下した際に、他科患者が共通病床として活用するための入室基準が整備されていない 病床可動の調整が難しい

問2. 貴施設における助産師の教育体制についてお尋ねします。

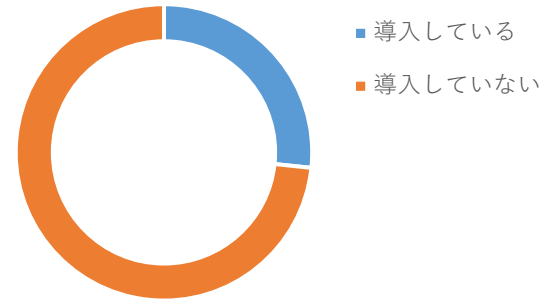
1. 助産師教育のマニュアルの作成について、あてはまる項目を選択してください。

作成している	6 施設
作成していない	9 施設



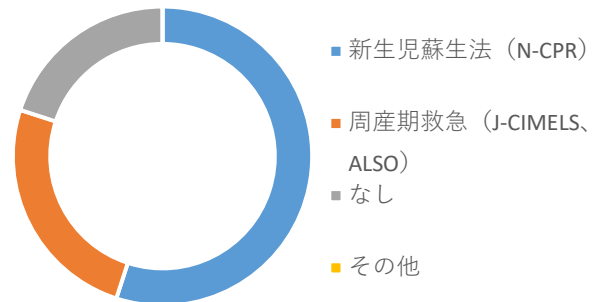
2. 助産師のクリニカルラダー導入について、あてはまる項目を選択してください。

導入している	4 施設
導入していない	11 施設



3. 助産師の受講を必須としているものについて、あてはまる項目すべて選択してください。

新生児蘇生法 (N-CPR)	11 施設
周産期救急 (J-CIMELS、ALSO)	5 施設
なし	4 施設
その他	0 施設



「その他」の場合は、内容を記入してください。

記入なし

4. 新人助産師の分娩介助に関する教育についてお尋ねします。

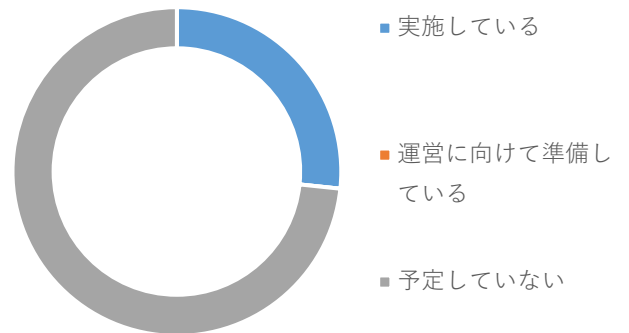
分娩介助を開始する時期、1年目の平均分娩介助件数について、数字を記入してください。

開始時期	0か月後	1	施設
	1か月後	1	施設
	2か月後	1	施設
	3か月後	2	施設
	6か月後	1	施設
	8か月後	1	施設
	9か月後	1	施設
	12か月後	2	施設
	12月	1	施設
	近年の実績なし	1	施設
	新人は来ない	1	施設
1年目の分娩介助件数	0件	2	施設
	0～1件	1	施設
	2件	1	施設
	4件	1	施設
	10件	2	施設
	15件	1	施設
	約20件	1	施設
	60件	2	施設

問3. 貴施設における助産師外来の運営についてお尋ねします。

1. 助産師外来（助産師による正常経過をたどる妊婦を対象とした妊婦健診）の運営について、あてはまる項目を選択してください。

実施している	4	施設
運営に向けて準備している	0	施設
予定していない	11	施設

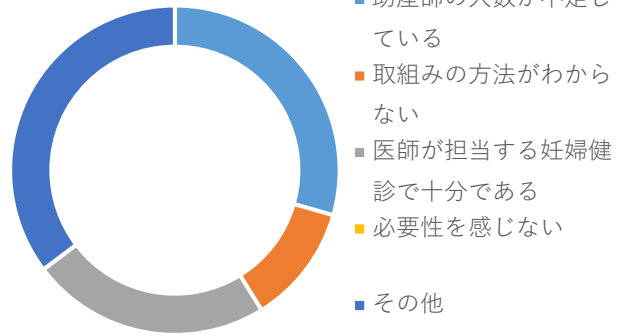


2. 助産師外来を担当する助産師の条件について、詳細を記入してください。

記入なし

3. 助産師外来を予定していない理由について、あてはまる項目すべて選択してください。

助産師の人数が不足している	5	施設
取組みの方法がわからない	2	施設
医師が担当する妊婦健診で十分である	4	施設
必要性を感じない	0	施設
その他	6	施設



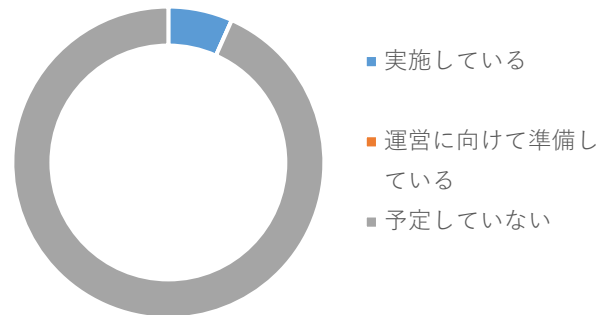
「その他」の場合は、内容を記入してください。

妊婦検診中の保健指導を充実させるため、診察は医師、指導は助産師といった形に分けている
 外来にて助産師1名パートで対応しているが、分娩取り扱いをやめたため。
 ハイリスクが多く正常経過の妊婦がほとんどいない
 場所がない。
 ハイリスク妊婦が多いため
 医師の妊婦健診とへ移行して助産師による妊婦指導を実施している
 健診を目的としない、助産師が妊娠経過などを説明する機会を前期と後期にもうけているから。また健診の超音波は技師がになっており、医師と役割分担をしているため。

問4.貴施設における院内助産の運営についてお尋ねします。

1. 院内助産の運営について、あてはまる項目を選択してください。

実施している	1	施設
運営に向けて準備している	0	施設
予定していない	14	施設



2. 院内助産で取り扱っている年間の分娩件数について、数字を記入してください。

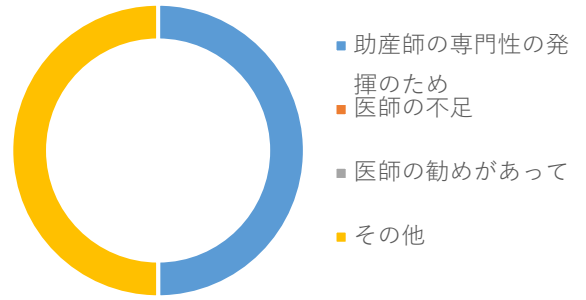
2 件 (1施設の未回答)

3. 院内助産を担当する助産師の条件について、詳細を記入してください。

アドバンス助産師
 施設内実践者ラダー?以上

4. 院内助産の開設のきっかけとなった理由について、あてはまる項目すべて選択してください。

助産師の専門性の発揮のため	1	施設
医師の不足	0	施設
医師の勧めがあって	0	施設
その他	1	施設

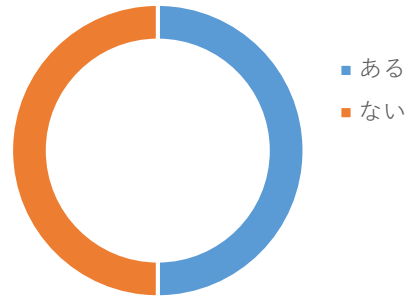


「その他」の場合は、内容を記入してください。

行っていない

5. 院内助産の継続および開設にあたっての課題について、あてはまる項目を選択してください。

ある	5	施設
ない	5	施設



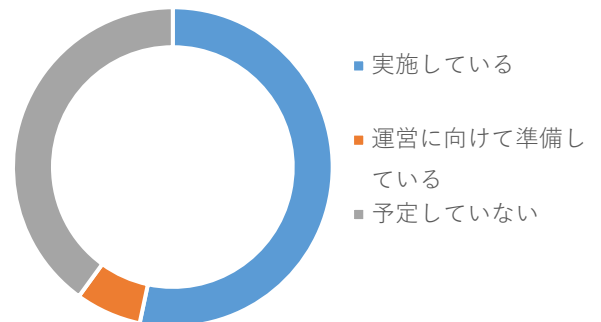
「ある」の場合は、内容を記入してください。

勤務体制
 助産師のモチベーション維持
 医師との調整。
 スタッフの質の向上。
 助産師の不足、ハイリスク妊婦が多い
 ハイリスクが多い。助産師の数が少ない
 助産師スキル
 助産師数
 異常時のバックアップ

問5.貴施設における地域包括ケアの実施状況についてお尋ねします。

1. 貴施設における産後ケアについて、あてはまる項目を選択してください。*全施設必須

実施している	8	施設
宿泊型 アウトリーチ型 デイサービス型	8	施設
	2	施設
	7	施設
運営に向けて準備している	1	施設
宿泊型 アウトリーチ型	1	施設
	1	施設
予定していない	6	施設



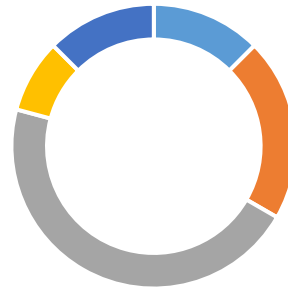
2. 1か月の利用件数について、数字を記入してください。

0	3 施設
0.3	1 施設
1	1 施設
2	1 施設
0~2	1 施設
5~7	1 施設
年間11	1 施設

※記入された内容をそのまま記載いたしております。

3. 貴施設におけるメンタルヘルスクリーニングの実施について、あてはまる項目すべて選択してください。

育児支援チェックリストの使用	3 施設
赤ちゃんの気持ち質問票の使用	5 施設
エジンバラ産後うつ病質問票の使用	11 施設
実施していない	2 施設
その他	3 施設



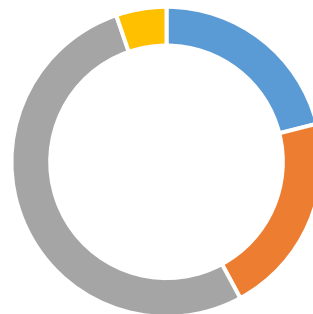
- 育児支援チェックリストの使用
- 赤ちゃんの気持ち質問票の使用
- エジンバラ産後うつ病質問票の使用
- 実施していない
- その他

その他の記述内容

3つを複合した形でしている QIDS-SR 持参した場合

4. スクリーニング実施時期について、あてはまる項目すべて選択してください。

妊娠中	4 施設
産褥入院中	4 施設
産後健診時	10 施設
その他	1 施設



- 妊娠中
- 産褥入院中
- 産後健診時
- その他

その他の記述内容

産後ケア実施時

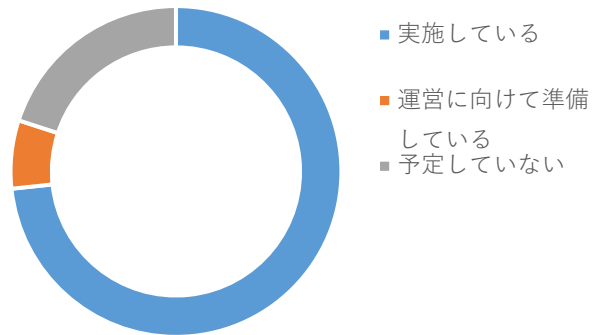
5. スクリーニング結果の活用方法について、詳細を記入してください。

他職種と連携する場合は職種名も記入してください。

問診で気になる回答があった場合や、必要性を感じたときに地域の保健所に連絡をしている。
 エジンバラ産後うつ質問票が9点以上の場合、産婦人科医師・心療内科医師と連携している。地域の保健師とも連携している。
 QIDS-SR11点以上、エジンバラ9点以上の場合、地域の保健師と連携をとる
 エジンバラ 9 点以上か10番目の項目が 1 点以上あれば地域の保健師さんへ連絡を取り連携を取りながら産後の母児とかがかかわっている
 9 点以上で症状がひどいときは、松山市保健所に連絡をとる
 全て地域保健師と情報共有を行っている。
 EPDS9点以上のケースは、地域の保健師に連絡、訪問等依頼している。
 また、ケースにより、院内の臨床心理士と面談を依頼している。
 エジンバラ産後うつ病質問票と助産師との面談で必要に応じて地域の保健師につないでいる
 エジンバラ産後うつ病質問票が9点以上の場合、対象が居住する地域の保健師と連携をとっている
 エジンバラ産後うつ病質問票の結果9点以上の場合、産科医師に報告。面談と市保健センターへの連絡を行い連携をとる。
 エジンバラが10点以上、また、0点の場合、まず話を聞いてから必要があれば地域へつなげている。
 エジンバラ産後うつ病質問票が9点以内について、地域の保健師と臨床心理士と連携をとっている

6. 産後2週間健診について、あてはまる項目を選択してください

実施している	11	施設
運営に向けて準備している	1	施設
予定していない	3	施設



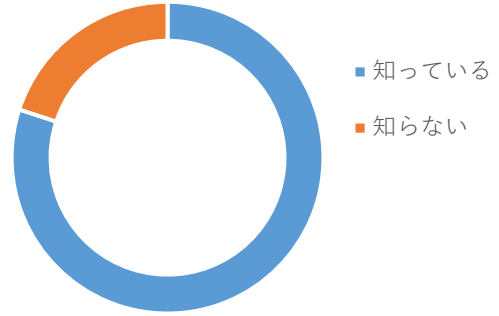
7. 退院後のケアおよびサービスについて、上記以外に行っている支援や取り組みがあれば、その内容を記入してください。

産後の様々な教室（有料・無料）を開催している。
 （ベビービクス、ベビーサイン、産後ヨガ、整体、
 電話訪問、母乳外来（当院で分娩した人も対象としている）、1ヶ月健診時の助産師外来
 電話訪問
 育児学級
 産後 2 週間で母児ともに検診を育児行い育児不安の強い方エジンバラが低くても低くても心配な方は電話訪問又は来院することをすすめています。
 一昨年までは、分娩を取り扱っており、その際は新生児訪問（分娩後 2 W～ 3 W）を行っていた。
 電話訪問、産後育児サークル
 電話訪問、母乳相談
 ベビーマッサージ教室
 産後ヨガ教室
 育児支援や母乳保育支援の訪問活動
 ベビービクス
 母乳外来を実施している。

問6.貴施設における助産師出向支援事業についてお尋ねします。

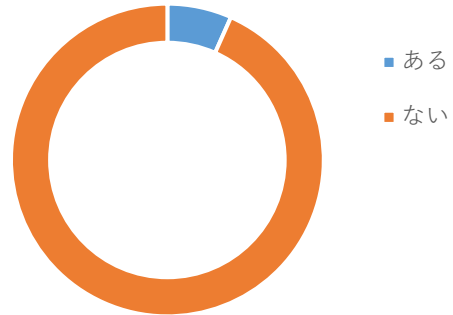
1. 助産師出向支援事業について、あてはまる項目を選択してください。

知っている	12 施設
知らない	3 施設



2. 助産師を出向させたことがありますか。

ある	1 施設
ない	14 施設



→ 「ない」と答えた方はその理由を記入してください。

しらないため
 出向させるだけの人員確保ができていない
 要請がない
 助産師の人数に限りがある。看護師としても業務にあたっているので人員不足につながる。
 要望がない、逆に新人などを受け入れる施設。
 自施設で精いっぱい
 意向はあったが、勤務人数の関係で出向に出せなかった。
 出向する施設がない
 助産師の数が少ないため

3. 出向した目的は何でしたか。

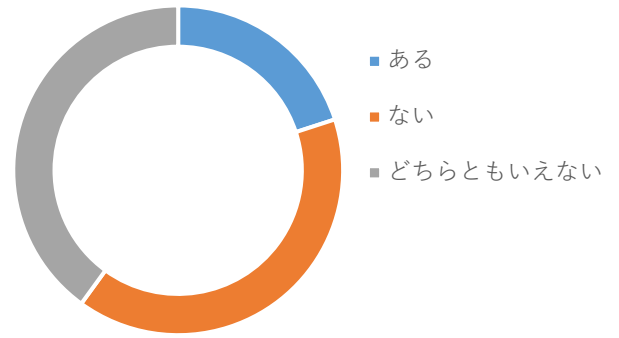
助産業務能力の強化、出向先の助産師不足

4. 出向させた際、どのような条件を整えましたか。あてはまる項目すべて選択してください。

期間 : 1年	1 施設
給与面で不利益にならない (給与が減額されない、給与は出向先が負担するなど)	1 施設
身分保障 (退職扱いにならない、退職金の計算にあたり出向期間中も勤務年数が継続される、共済積立貯金などが継続されるなど)	1 施設
住居の確保	1 施設
出向中の経験が出向元の人事評価に反映される	0 施設
インシデント・アクシデント発生時の対応の保障	0 施設
その他	0 施設

5. 今後、他施設に助産師を出向させる意思がありますか。

ある	3	施設
ない	6	施設
どちらともいえない	6	施設



「ない」「どちらともいえない」を選択した方は、その理由を記入してください。

産休のスタッフがおりで人員不足が予測されるため

分娩件数がある程度あるし、助産師外来への配置も必要で、出向させるまでのゆとりがない。

現在助産師としてきちんと一人でこなせる方が2名しかおらず（1名病休中 1名月2回待機のみ1名入職して助産業務についてまだ時間が経過していない）現在の状況での出向は難しいと思います。

これまで研修の形では分娩件数の多い施設に契約し2名の新人助産師を送ったことはある。

分娩取り扱いをやめている今、助産師のモチベーションと、地域での助産師人財活用の観点からも考えるところはある。

県内でもハイリスクが多く、若いスタッフにとっては勉強になると思う。

産科（分娩取扱い）存続、助産師在籍人数の確保が今後も長期間にわたり可能かどうか分からない。

助産師の人数が少なく出向させる余裕がない

自施設で精いっぱい余裕がない

助産師の数が少なく、出向できない。反対に出向してきてほしい。

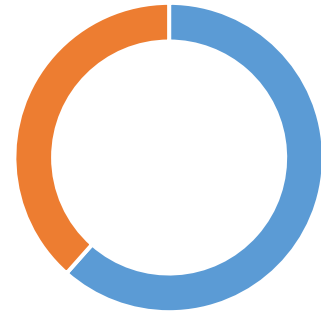
人数的な余裕がない

6. 今後、出向させる場合、どのような目的、条件であれば可能だと思いますか。

あてはまる項目すべて選択してください。

<目的>

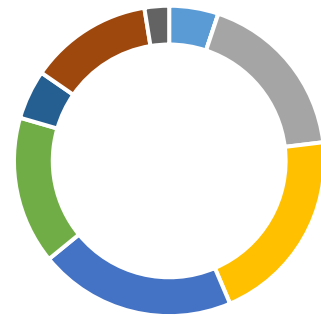
研修（身分も給料も出向元が保証するもの）	8	施設
出向先の助産師数の是正のため（労働力として）	5	施設



- 研修（身分も給料も出向元が保証するもの）
- 出向先の助産師数の是正のため（労働力として）

<条件>

短期間での出向	2	施設
期間	3	か月
年度毎（1年間）の出向	2	施設
今後数年間の継続した出向	0	施設
必要な人材の条件が合えば（経験年数、分娩介助件数など）	7	施設
給与面で不利益にならない（給与が減額されない、給与は出向先が負担するなど）	8	施設
身分保障（退職扱いにならない、退職金の計算にあたり出向期間中も勤務年数が継続される、共済積立貯金などが継続されるなど）	8	施設
住居の確保	6	施設
出向中の経験が出向元の人事評価に反映される	2	施設
インシデント・アクシデント発生時の対応の保障先が決まっている	5	施設
その他	1	施設



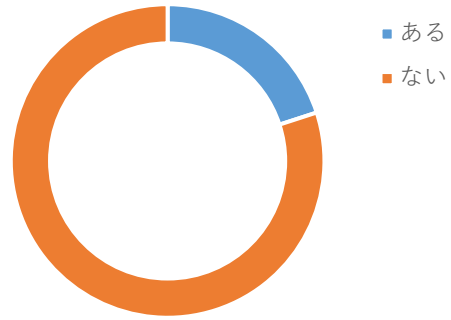
- 年度毎（1年間）の出向
- 今後数年間の継続した出向
- 必要な人材の条件が合えば
- 給与面で不利益にならない
- 身分保障
- 住居の確保
- 出向中の経験が出向元の人事評価に反映される
- インシデント・アクシデント発生時の対応の保障先が決まっている
- その他

→ 「その他」と答えた施設の記述内容

当院の人材に余裕がある状況であれば検討はできると考えます。

7. 出向助産師を受け入れたことがありますか。

ある	3 施設
ない	12 施設

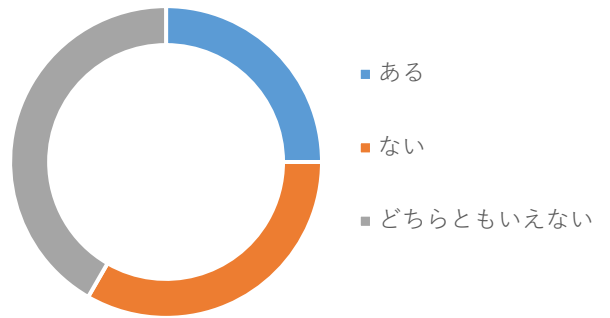


その目的または理由を記入してください。

しらないためため
 要請がない
 分娩件数が少なかった。現在は行っていない。
 そういう話がなかった
 要請がない

8. 今後、他施設からの出向助産師を受け入れる意思がありますか。

ある	3 施設
ない	4 施設
どちらともいえない	5 施設



→ 「ない」「どちらともいえない」と答えた方はその理由を記入してください。

制度やどのように実施すればいいのかわからない、経験がないのでどのように受け入れればいいかわからないため
 正常分娩が少なく、新人助産師や学生が助産業務を経験できなくなるため。
 先ほど記入しましたが病欠者が出勤 もう1名がひとり立ちしたら4名で業務を回していくことができるようになります。
 お産件数も年々減少してきているのでその時の状況でお返事が異なってくると思います
 分娩を取り扱っていない。
 院外のお施設等から申し出があれば、受け入れは検討できると思います。
 分娩件数の減少
 中途半端に来られてもうまくいかないと思う
 分娩件数が少ない

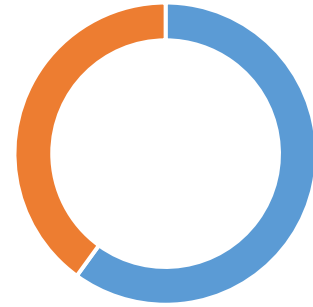
9. どのような目的・条件であれば受け入れが可能であると思いますか。
あてはまる項目すべて選択してください。

<目的>

研修（身分も給料も出向元が保証するもの）	9	施設
出向先の助産師数の是正のため（労働力として）	6	施設

<条件>

短期間での出向：3時間	1	施設
年度毎（1年間）の出向	3	施設
今後数年間の継続した出向	0	施設
必要な人材の条件が合えば（経験年数、分娩介助件数など）	7	施設
給与面で不利益にならない（給与が減額されない、給与は出向先が負担するなど）	6	施設
身分保障（退職扱いにならない、退職金の計算にあたり出向期間中も勤務年数が継続される、共済積立貯金などが継続されるなど）	6	施設
住居の確保	5	施設
出向中の経験が出向元の人事評価に反映される	2	施設
インシデント・アクシデント発生時の対応の保障先が決まっている	8	施設
その他	1	施設



- 研修（身分も給料も出向元が保証するもの）
- 出向先の助産師数の是正のため（労働力として）



- 短期間での出向
- 年度毎（1年間）の出向
- 今後数年間の継続した出向
- 必要な人材の条件が合えば
- 給与面で不利益にならない
- 身分保障
- 住居の確保
- 出向中の経験が出向元の人事評価に反映される
- インシデント・アクシデント発生時の対応の保障先が決まっている
- その他

→ 「その他」と答えた施設の記述内容

分娩取り扱いの再開

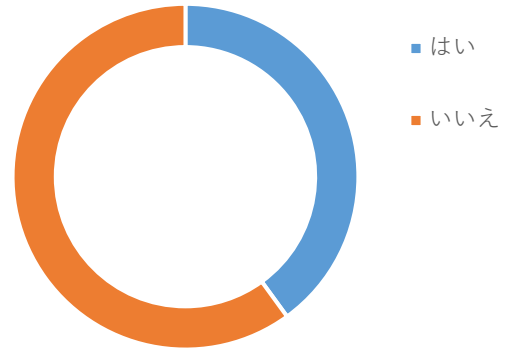
10. その他、助産師の出向について、ご意見・ご要望などご自由に記入してください。

地域で助産師教育、人材活用の観点からも賛成である。
 当院は分娩数が少ないので、新人助産師の育成のためには分娩介助の経験を増やすためにも分娩数の多い病院へ出向させたいと思うが、現場の人員確保や出向先の条件によって実現が難しい状況である。
 今後、地方における助産師の偏在は重要な問題である。このままでは南予地域の周産期医療の存続が難しくなる。出向制度が成立しなければ、当院における産科の存続ができなくなるため、ハイリスクの分娩や急変時に松山まで搬送しないとイケない状況になる。松山まで救急車で1時間半から2時間かかるので、救える命も救えない状況が起こる。このような危機的な状況にならないよう検討していただきたい。

問7.災害時における周産期医療体制や母子支援に対する考えについてお尋ねします。

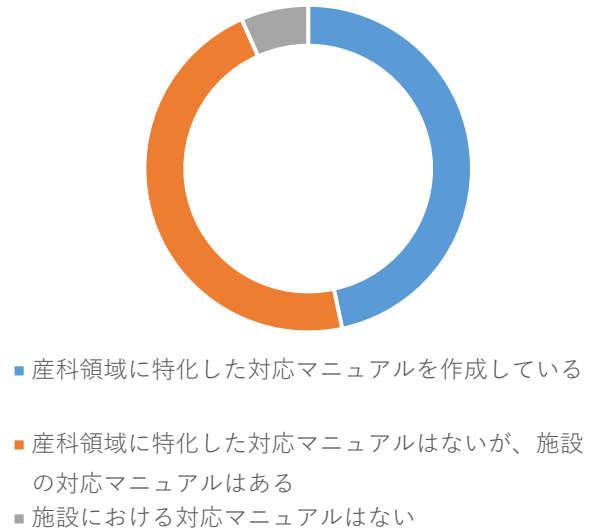
1. 貴施設は災害拠点病院に認定されていますか。

はい	6 施設
いいえ	9 施設



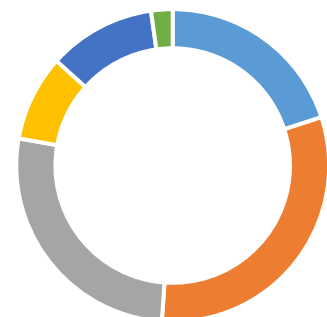
2. 貴施設での災害時における対応マニュアルの作成について、あてはまる項目を選択してください。

産科領域に特化した対応マニュアルを作成している	7 施設
産科領域に特化した対応マニュアルはないが、施設の対応マニュアルはある	7 施設
施設における対応マニュアルはない	1 施設



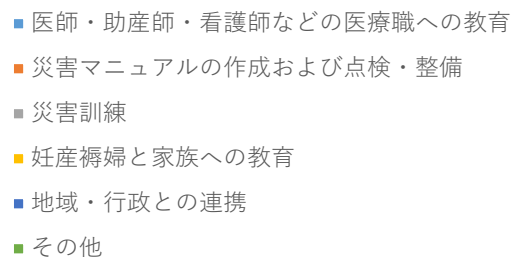
3. 貴施設における災害への対策について、あてはまる項目すべて選択してください。

医師・助産師・看護師などの医療職への教育	9 施設
災害マニュアルの作成および点検・整備	14 施設
災害訓練	12 施設
妊産褥婦と家族への教育	4 施設
地域・行政との連携	5 施設
その他	1 施設



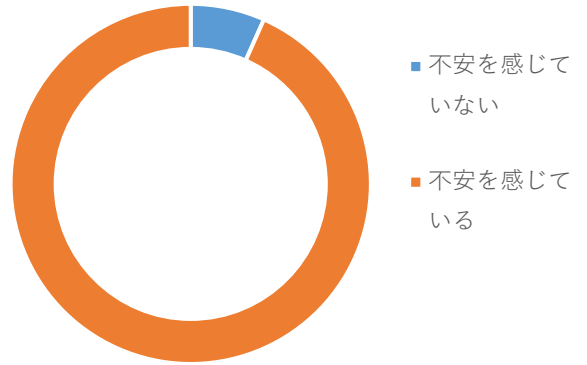
→ 「その他」と答えた施設の記述内容

現在災害時の妊産婦との連絡体制等を検討中



4. 貴施設における災害への心構えについて、あてはまる項目を選択してください。

不安を感じていない	1	施設
不安を感じている	14	施設

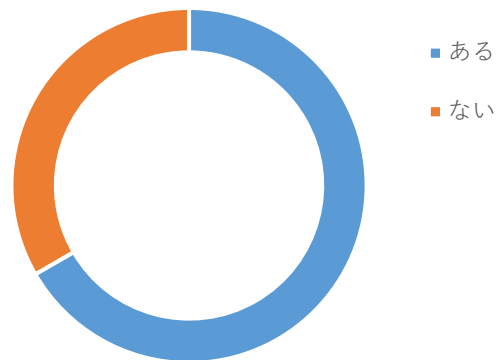


→ 「不安を感じている」の場合は、その内容を記入してください。

どのような被害がでるのか分からない。
 ライフラインが寸断されたなかで、分娩ができるのか不安
 スタッフがマニュアルを踏まえた行動が実際にできるかどうか。
 危機管理の意識が希薄。
 マニュアルはできているが、災害の状況により収容人数や対象者が予測できないため。
 2年前の災害時も当院は幸い影響はありませんでした。年間2回災害と消防訓練はしておりますが実戦経験がないためその状況になった場合災害物品量が足りるのか又何が本当に必要なかがわかりません。点検もしておりますが不安ではあります。
 災害の程度が予測を超えることがあり、現在のマニュアルで対応できるか不安
 土地が低く、隣接する河川の氾濫によりこれまでも1階が浸かったことがある。
 自家発電の位置（1階）
 大きい災害時に受け入れ施設としてマンパワー不足を感じる
 災害の経験がなく、現在の対策の不足な点がわからない。
 発災時の分娩対応や緊急帝王切開など他職種でのシミュレーションが不十分であるため
 毎年のように豪雨災害がおこっている
 南海トラフがくるといわれている
 津波時の水害の危険性が高く、実際にどう対処して良いか不安要素はある。
 実際の災害がおこることが想像できない
 災害発生時、圏域における妊産婦の対応をすべて当院で受け入れないといけない状況になった場合、対応できる人員が不足している。
 想定外のことが起こり得ることへの不安

5. 災害時の地域支援や施設連携などにおいて、行政や団体などに期待することはありますか。

ある	10	施設
ない	5	施設



→「ある」の場合は、その内容を記入してください。

何か支援してくれるだろうとは思いますが、具体的にどのようなことを支援してくれるのかは分からない

産科に特化したコーディネータが二次医療圏域にほしい。

県下の産婦人科クリニックや病院での受け入れ体制、被災状況、収容状況、応援体制などを把握できるシステムの整備

2年前の災害時当医院においては分娩予定日近くの妊婦産後1年までの方たちへの連絡に安否確認をし必要な品物の確認と交通手段のある方には取りに来ていただくなどの対応をさせていただきました。この教訓をいかし現在地域保健師さんたちとの連絡会には地域各施設助産師さん達も参加し災害時の対応を検討中ですしマニュアルも作成しています。現在コロナの影響で途中になっていますがほとんど出来上がっていると思います。

自施設が機能しなくなった場合の、透析患者や入院患者の受け入れ。

支援体制について早急な情報提供と共有、支援のコーディネート

当院が被災した場合の他病院との連携はどのようにとるのか。

県全体での訓練が必要ではないか（広域母体搬送の想定など）

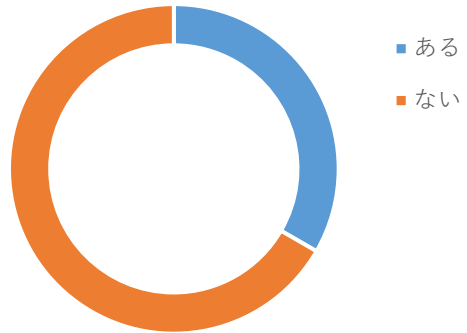
患者対応、搬送協力、情報交換 等

地域の周産期医療を担う病院、施設間の連絡調整役（コーディネーター）

問8.貴施設における小児在宅移行支援についてお尋ねします。

1. 貴施設にはNICUを併設していますか。

ある	5 施設
ない	10 施設

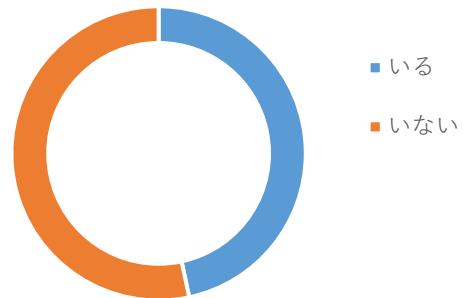


→あると答えた施設の病床数

3床	1 施設
6床	2 施設
12床	1 施設
45床	1 施設
無回答	5 施設

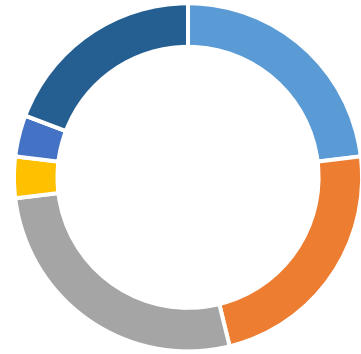
2. 貴施設には医療的ケア児が入院していますか。

いる	7 施設
いない	8 施設



3. 医療的ケア児の退院支援における主となる支援者について、あてはまる項目すべて選択してください。

メディカルソーシャルワーカー	6	施設
医師	6	施設
看護師	7	施設
助産師	1	施設
退院支援コーディネーター	1	施設
小児在宅移行支援指導者	0	施設
その他	5	施設



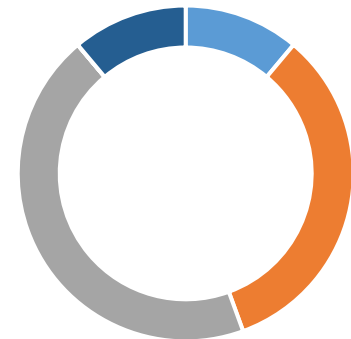
- メディカルソーシャルワーカー
- 医師
- 看護師
- 助産師
- 退院支援コーディネーター
- 小児在宅移行支援指導者
- その他

→ 「その他」と答えた施設の記述内容

カウンセラー 医療的ケア児がおりません また対応したことがありません 臨床心理士 実績なし 臨床心理士

そのうち主となる支援者を選択してください

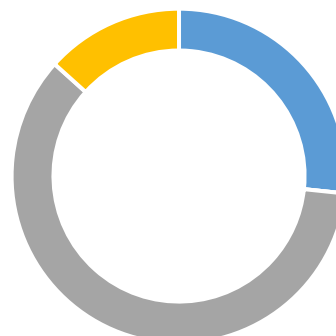
メディカルソーシャルワーカー	1	施設
医師	3	施設
看護師	4	施設
助産師	0	施設
退院支援コーディネーター	0	施設
小児在宅移行支援指導者	0	施設
その他	1	施設



- メディカルソーシャルワーカー
- 医師
- 看護師
- 助産師
- 退院支援コーディネーター
- 小児在宅移行支援指導者
- その他

4. 医療的ケア児の在宅支援における取組みについて、あてはまる項目を選択してください。

実施している	4	施設
運営に向けて準備している	0	施設
予定していない	9	施設
無回答	2	施設



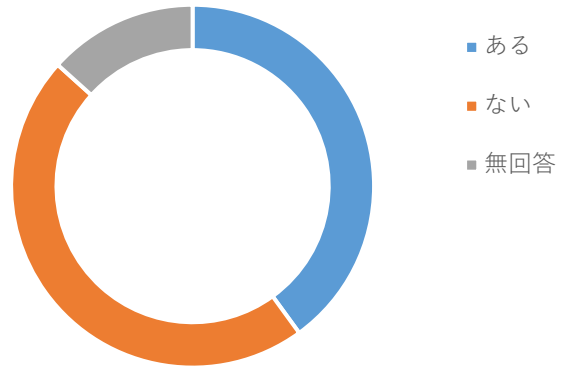
- 実施している
- 運営に向けて準備している
- 予定していない
- 無回答

「実施している」「運営に向けて準備している」の場合は、その内容を記入してください。

訪問看護との連携
 地域の保健師との連携
 医療機器関連業者との連携
 フォローアップ外来での病棟看護師のサポート
 他部署のため詳細は不明です。
 医療訪問、多職種による退院支援会議、
 退院前自宅訪問（訪問看護師とともに）
 地域を含めた支援者の拡大カンファレンスの開催
 件数的には多くないが、それぞれの状況に応じて、多職種でかかわっている。

5. 医療的ケア児の在宅支援における課題について、あてはまる項目を選択してください。

ある	6	施設
ない	7	施設
無回答	2	施設



「ある」の場合は、その内容を記入してください。

医療的ケア児は、近隣の3次の病院から家に帰るので、繋がりが少ない。
 地域の医療機関として、急変時や発熱などのときには対応をしたり、外来では数名の医療的ケア児の対応を行っているが、かかりつけではないので、家族との関係性の構築も難しい。
 小児専門の退院支援コーディネーターがない
 医療側の支援がどの程度できるか
 小児科医師がない
 在宅医療の資源が乏しい（人的・物的）
 病院と自宅での療養環境のギャップをいかにうめるかが課題である

問9.貴施設におけるウイメンズヘルスケアの実際についてお尋ねします。

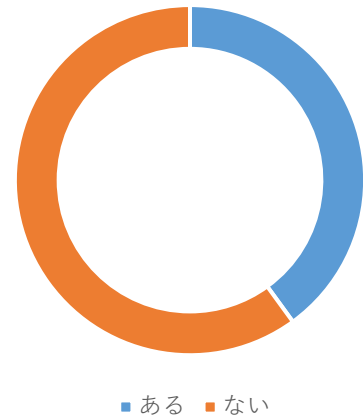
1. ウイメンズヘルスケアにおける組織的取組みについて、あてはまる項目を選択してください。

* ウイメンズヘルスケアの対象は思春期から老年期にわたる女性であり、支援内容として家族計画、不妊・不育、性感染症、月経異常、暴力予防、予期せぬ妊娠、多様な性、虐待予防の支援などを含みます

ある	6	施設
ない	9	施設

「ある」の場合は、その内容を記入してください。

CAPS委員会・CAPSチームを設置している。
 虐待予防の支援
 家族計画
 不妊・不育、性感染症、月経異常、暴力予防、予期せぬ妊娠等については、診療の一環として相談・支援を行っている。
 虐待に関する委員会は立ち上げが検討中である。
 不妊治療患者に対する治療と就労の両立支援、性暴力被害者対応、思春期・更年期外来
 がん・生殖医療相談外来・不妊外来・女性漢方外来を設置している
 不妊カウンセラーによるカウンセリング
 医師による性教育
 保健センターとの連携
 性感染症に対する 男性診察(当院患者と婚姻関係にある人)
 葉酸サブリのサンプル配布



問10.愛媛県看護協会助産師職能委員会の活動に対して期待することがあれば自由に記入してください。

助産師だけでなく、産科医の不足や小児科医の常勤医がいないなどの理由により、分娩を取りやめなくてはならない状況だと思えます。

自施設も2名の助産師が分娩をしたいと辞めざるをえませんでした。何とか残った助産師の事を考え、産後ケアを行っている状況下です。

助産師が助産師でいられる環境を頑張って作ってあげてほしいです。

周産期やウイメンズヘルスケアでトピックスになっている内容についての研修を企画・開催していただきたい。

産科混合病棟での助産師の育成（看護実践能力向上を目指したキャリアローテーションなど）の取り組み

南予圏域の助産師不足は大きな課題と考えています。南予だけの問題としてではなく、愛媛県全体の問題としてとらえ、南予圏域の周産期医療の存続に協力していただきたい。他県ではすでに実施されている助産師出向事業における立ち上げと事業内でのコーディネーター的な役割りを看護協会で行っていただけるとありがたいです。よろしくお願いたします。